

平成24年度第2回特別支援教育保護者研修会報告

講演概要

「ことばの障がいを考える」

江別市立大麻東小学校 ことばの教室

教諭 山田 せつ 氏

- 多くの人の前で話すのはすごく苦手なのです。子どもと一対一、保護者と一対一ならいくらでも話ができる。
- 岩手県の中学校の体育の教員だったが縁があって北海道にきて、大麻小学校に勤めた。その時に、クラスに話がかみ合わない子等がいた。ノートに律儀に学習したことを書いてくるがテストになると間違える。何故だろう？と思ったが、これといった手助けはできなかった。そんな時に「ことばの教室」の指導を偶然見て、「やった！」と思い、大学で1年間勉強を続けた。
- 「ことばの教室」とは
お子さんのことばの困り感に応じて、改善や軽減を目標にして指導・支援する教室
- **どんな子が通ってきているのか**
 - ①発音がちがう 「さかな→たかな」「これはたいです→これはかいです」「あし→あひ」
発音は発達年齢に応じて獲得年齢が違う
 - ②スムーズに話せない 「おーおんなの子が ごーはんをね ははしを持って たーべている」
 - ③ことばのやりとりがかみ合わない
話しをしてもしっくりこない
 - ④年齢に比べ、話し方が幼い
「お母さん買って、先生 言った」(小学1年後半)
 - ⑤その他（人前で話せない、読み書きが苦手等）
選択性場面緘黙の子、ひらがなの拾い読みをする
- 原因を探りながら支援を思考錯誤して考えていく。
- **ことばの困り感によって、どんなことが起こるか**
ことばは3つの役割をしている。
 - ①スピーチ
 - ②ランゲージ（考えることば）
 - ③コミュニケーション(伝え合う、やりとり)(例)
「おばたん たらとたち どどにあるの」



「おばさん さらとおかし どこにあるの」

小学校に入学して「変なの？」とクラスの子に言われたら、自分は「変かな」「話したくない」と思い、また話すと「変なの？」と言われるから一人ぼっちになってしまい、みんなの前に行きたくなくなり、終いには「学校に行きたくない」となるのではないのでしょうか。

文字を書くときも発音通りに書くので、間違っただ書き方になり、上と同じようになってしまうかもしれません。

「吃音、幼いやりとり、何を言っているのかわからない」となったら、同じようになるかもしれなません。

・なぜ、困り感が起こったのか

「ことばのビル」(中川 のり子氏、資料参照)

「ことば」はビルの最上階にあり、すべてが育ちながら「ことば」が出てくる。

・ことばはどこで発せられるのか

横隔膜で息を吸って吐いて声帯で出している。

- ・「あなたは悪くない、ペロさんが間違っ覚えてしまった。」というように、本人を全部否定しないことが大事。
- ・吃音の原因にはいろいろあり、指導法もいろいろある。その子の状況に応じて対応していく。

・ことばの教室では、どのように指導するのでしょうか。

困り感を聞く



成育歴を知る



お子さんの状態を把握する



指導方針・指導内容を考える



指 導



保護者 ⇔ 指導者

観 察 ← その日の指導目的を伝える
← 保護者に今日の指導の結論を言う

他の見方を→

教える

ことばの教室での指導、子どもの成長が、家庭での生活のヒントになるかもしれない。

- 指導するからには、効果が出なければならぬし、遊びは目的を持ってやらなければならないが、子どもが遊びの先生。指導は、私たちが先生です。遊びの中に指導はできない。
- 指導については、保護者とも話すが学校の先生とも話し連携をとって情報を共有を図りながら見守っていく。
- 病院、特別支援教育センター等、いろんな専門機関とも連携をとっている。

• **通級するためには**

- ①ことばの教室に電話する。
(困り感を話す。教育相談の日時を決める)
- ②教育相談をする。
(親面接・こども検査)
- ③担当者会議
(支援の有無等)
- ④通級

• **どこにあるのですか**

小学生の教室・・・大麻東小、中央小
幼児の教室・・・児童発達支援事業所こだま、こだま分室
(中央小・大麻東小)

- 私は子どもの笑う顔が好きなんです。子どもの笑う顔と言うのは、その後ろに必ず親御さんいます。子どもが笑顔になれば親御さんもうれしくなりますよね。だから私は子どもの笑顔を求めて指導していきます。